平成 30 年度事業報告書

（平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで）

特定非営利活動法人京都スポーツ障がい者スポーツ推進協会

1 事業の主たる成果

(1) チャレンジカップ京都大会の開催について

平成 30 年 5 月 12 日～13 日、サンアビリティーズ城陽体育館で開催されたパワーリフティング競技の「第 1 回チャレンジカップ京都大会」に後援するとともに、チラシやポスターを当会で作成して京都府や城陽市その他関係機関に配布し、宣伝、啓発活動を行うなど、大会に全面的に協力した。

また、地元城陽の青谷コミセンでは、地域住民を対象にパワリフ競技を知ってもらおうと「見学・体験バスツアー」を実施。実際にバーベルを上げる「体験会」なども行う中で、パワリフへの理解も大きく進んだ。この企画や運営も当会が行った。

(2) 歓迎レセプションの開催について

チャレンジカップ京都大会の開催に併せて、5 月 12 日の夕方、文化パルク城陽で、京都府山下副知事や奥田城陽市長、スポーツ庁山本専門官らを迎えて、歓迎レセプションを開催した。選手や地域の支援者を含め 120 名が参加し、交流を深めた。京都府、城陽市とともに主催者としての役割を果たし、当会の認知度も高めることができた。

特に、総合的な企画だけではなく、受付業務や進行シナリオの作成、司会進行など、運営の多くを担った。

また，パラスポーツと農業のコラボとしての農福連携について、京都府とともに取り組んだところ、各地の食材を活用した食の提供やパラスポーツをイメージしたバウムクーヘンの製品化にもつながった。

このコラボがもたらした成果は、パラスポーツ団体の活動だけではなく、農業や福祉、モノづくり関係者など、幅広い、多種、多様な人たちとの横のつながりをつくる契機となった。

(3) 障害者スポーツ活動報告会の開催について

平成 30 年 11 月 25 日、文化パルク城陽で「障害者スポーツ活動報告会」を開催した。この取り組みは、城陽市の「福祉ふれあいまつり」の一環で、心障センターと当会の初めての合同企画として実現したもので、パネルディスカッション形式で行った。

パネラーには、アテネパラリンピック車イスバスケット元日本代表選手の阪根氏、リオパラリンピックの視覚障害者マラソンの伴走者の日野氏、パワーリフティングの森崎日本代表選手を迎え、競技を始めたきっかけや今後の目標など、パラスポーツの魅力を語っていただいた。

福祉ふれあいまつりでは、初めて障害者スポーツコーナーを設けたもので、障害者スポーツの裾野の拡大に寄与するものとして新聞でも注目された。

(4)「第２回障がい者スポーツに触れる会」の開催について

平成 31 年 1 月 19 日、サンアビリティーズ城陽体育館で、当会が主催して「第２回障がい者スポーツに触れる会」を開催した。前半は、日本パラ・パワーリフティング連盟の吉田理事長が進行役を務め、パネラーにトップアスリートである西崎選手、宇城選手、中辻選手、中嶋選手の 4 名が参加。日常生活や大切にしている取り組みなどを語っていただくとともに、東京パラにに向けた抱負などが語られた。後半は、実際にバーを上げる体験交流会を行った。奥田城陽市長、京都府の松村健康福祉部長ら約 70 名が参加した。

２業務執行体制の整備

平成 30 年 11 月 11 日の臨時総会において、定款の変更、役員変更等を行い、以下のとおり業務執行体制の整備を図った。

(1)主たる事務所の移転

迅速かつ効率的に業務を行うため、活動拠点であるサンアビリティーズ城陽の体育館がある城陽市に主たる事務所を平成 31 年 1 月に移転した。

(2)常務理事の選任と事務局体制の整備

常務理事を新たに置くとともに、理事長、副理事長を中心とした常設の「業務執行役員会」を設置し、日常的な業務をこの役員会が決定、執行していく体制とした。

併せて、平成 31 年 1 月 1 日付けで専任の事務局員を 1 名雇用した。